

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 学校紹介

市川市南東部の船橋市に隣接する地域を学区とし、最寄駅は JR 総武線の下総中山駅である。創立58年目を迎えた、19クラスの学校である。また、市川市内の中学校に2校設置されている日本語教室がある。

学校教育目標として、「やさしく たくましく 生きる人間に成長しよう」を掲げ、生徒は授業や学校行事、部活動等に積極的に活動している。

2 研究主題 「一人一人が主体的に学び・取り組み・行動できる生徒の育成」

～基礎・基本の定着を図り、生徒が意欲的に活動できる授業の在り方～

3 研究の概要

(1) 生徒の実態と課題

今年度実施された全国学力・学習状況調査の結果は、以下のとおりである。

国語・国語A,Bとも全国平均を下回った。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で大きく下回っている。国語Aの「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っている。

数学・数学A,Bともに全国平均を下回っている。特に「関数」の低さが目立つ。また、説明する問題は正答率が低く、無解答も多い。

生徒質問紙・「1,2年の時に受けた授業の始めに目標が示されている」が、全国と比較して肯定的な回答が向上している。
 ・「家で学校の授業の復習をしていますか」と「家で計画を立てて勉強をしていますか」では、全国と比較して低い位置にある。
 ・「自分には良いところがあると思う」が全国平均を下回る。



(2) 学力向上のための取組とその成果

○学校、学年、クラスの生徒中心の主体的な活動→**自己有用感の向上**

○数学では、2、3学年での習熟度別少人数授業→**発表や質問が増加**

○生徒の主体的な学習を活発に行うための研修や授業研究→**工夫した活動が増加**

○每学期複数回の「授業観察」→**職員同士の参観による指導力の切磋琢磨が図られた**

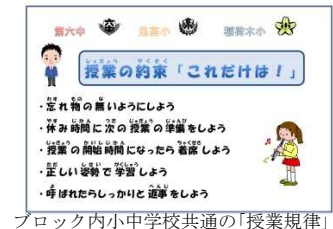
○「授業評価」を実施→**結果を各職員に示し、具体的な授業改善事項を掲げ取り組んできた**

○「小中一貫した生活調査と家庭学習への取組」について

ブロック内小学校と検討→**生活面での調査母体の追跡分析が可能に**

○朝学習と小テスト
放課後「校内塾 まなびくらぶ」 } → **基礎・基本の定着**

○地域人材の活用→**体験的な学習やコミュニケーション力の向上**



(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用とその成果

○2,3学年の数学科において習熟度別少人数授業を実施→ **きめ細やかな指導
主体的な学習活動の増加**

○校務分掌に「校内学力検証」を設置→ **検証活動に特化・横断的な活用・連携**

4 今後の課題

- ・全国学力・学習状況調査に基づく職員の指導力向上と家庭学習の意識を高めていく。
- ・自己有用感の育成や夢を持つことのできる魅力的な学校づくりを推進していく。